

「何でも意見を聴かせてください会」 #2_20240507

18:00-20:00

オンライン

進行：吉田創（外部ファシリテーター）、議事録：山崎元（推進委員）

■グランドルールの確認

- 住民とは＝町民＋別荘所有者・町内勤務者・訪問者など
- 対話の場の構造＝委員会⇄住民の対話の場、「基本方針」段階での意見を聞く場は、4回予定されている
- 目的：「より良い基本方針ができること」「住民意見が基本方針に反映されること」
- 今日のゴール：本日参加してよかったと思っていただくこと。少しでもモヤモヤした気持ちが解消されること、ワクワクした気持ちが増えていること

■チェックイン

- 参加者1：7年前に移住、元々母親が軽井沢で生まれ育った。犬が好き、自然環境が好きで移住を決意。参加のきっかけは、意見を言える場があったため。当時聞いた新庁舎の計画に唐突感があった、その後資料などを確認している。
- 参加者2：居住歴27年。庁舎改築プロジェクトの流れがどのようになっていくのかを確認しながら、理解を継続していこうと考えている。
- 参加者3：6年前に移住、建築・まちづくりを生業にされている。プロジェクトに興味あり参加、住民としてプロジェクトの状況を把握したい。

■お話ししたいテーマ

■ご質問

- 庁舎のリノベーションの検討はしていないのでしょうか？
 - 建て替え前提です
 - →C：議論があったのであれば議事録を残した方が良いでしょう。
- 事業用地（民有地）の取得には、現存する建物の移転費や移転先の土地取得なども絡むと思うが、総費用（予測）は？
 - 総額は未定、これからの検討。
- 取得額が相当嵩むのであれば、取得しない選択肢もあるのか？ 取得するかしないかで、基本計画が変わるのではないかと？
 - 今の段階では取得しないとはならない
- 建替庁舎の設計寿命（次の建替の時期）は60年との共通認識でよいのか？発注者側も受注者側も共通認識として定義されているのか？
 - ”一般的”と言われている、最低60年と設定している。
- 災害対策として発電他設備は必要と思うが、風越や木もれ陽など、分散による対策計画は？
- 庁舎機能の分散化（木もれ陽の里）への方針転換が検討されているのでは

うか？

- 前回の基本方針は集約だったが、今回は見直し対象になっている。防災計画にしたがって今後検討する。目的は、防災、負荷分散、コスト削減となる
- 役場機能をどこに置くのかと言う議論は、「どこでどのようなサービスを提供すると良いのか？」は次の「おしゃべり会」のテーマにする
- →C：建築費用の削減と災害時のバックアップに使えると考える
- →C：災害時のリスク分散、アクセス性・利便性のアップ。DX化による面積削減がどのタイミングで見えるかによって、計画が変わるだろう。
- 移動役場の調査などの進捗は？
 - 必要な内容で行っていきたいと思うが、調査までには至っていない。
- 主要設備機器の寿命と年間維持費の算定はされていますか？
 - 今後の検討内容
- 公民館機能や運営方針についてももう少し具体的に教えてほしい。既存の公民館をコンバージョンした後に、公民館は公民館として運営するのか、そうじゃないのか。
 - 社会教育法上の公民館に限らずに、ゼロベースで何が良いのかを考えたい。一方で、公民館を無くしてしまうわけには行かない、各地区の分館の親館としての役割もある。
 - →C：前計画を見ると、庁舎と公民館の組み合わせのハードに、ソフト運営を絡めて人を集めることを目指しているように見受けられる。さらに役場のDX化が進み庁舎にも人が訪れる機会が減るとすると、人が集まるための動機づけが必要になるのではないかと。商業的な要素・PFIの活用などによって、人が集まる仕組みの検討が必要なのではないか。
- DX進捗次第で、執務の必要面積は大きく変わると想定されるが、進捗計画と庁舎計画のリンクの具合は？
 - リンクして進めている
- 住民との対話の在り方の展開について知りたい。もう少しクリエイティブな手法はないか？
 - → C：前回の庁舎の報告会を見させていただいたが、庁舎を建て替える作業はクリエイティブ・創造性に富んだ行為だと思う。必要条件に対して役場の人が構えてしまう、重箱のすみを突くような構図になってしまう。「交流」など耳障りのいい言葉を、具体的に誰がどこで何ができるのか、お話しできると設計者への優良な情報になる。そのシーズになるような創造性のある対話の場があると良い。例えば、子供たちの教育の場面で、一緒に考えるような地域教育にもアウトプットにもなる。子供たちが入れば大人たちも入る。そのプロセスを経ることが全体の最適化につながる。

- 現状課題としてスペース不足が上がっているが、書類の保管場所がない事例があったが電子データ化で解消してほしい。
- 公民館では社会教育法に縛られるが、公民館ではなくすと使い勝手が良くなるのはわかる。発地市庭などの指定管理者が入ると、市民活動の寄付でも10%のマージンを取られる。それで困っている市民団体がいるが、ソフト運用にはそのような事も含めて考えていただきたい。
- 実際に使う時にどうなのか？公民館側の機能は、建替にしてもリノベーションにしても長期に渡って使える場所がなくなってしまうと市民活動が停滞してしまう。工事期間中の代替施設が必要。市民活動の停滞にならないような進め方を考えて欲しい。
- 軽井沢病院の前のバス待ちをしていた中高生がコロナで風除室にも入れず寒い中でバスを待っていた。公共交通のバス停と役場で中高生が休める場所を考えて欲しい。
 - このような意見の中から、人が集まる庁舎・公民館のイメージが湧いてくる。
 - 茅野市の市民会館は、駅に近いところに小さな図書館を作って電車待ちの間に宿題ができるようになっていいる。これは子どもとのワークショップの中から生まれてきた意見。
- 旧計画の中で、22年6月のWSを開催した。その結果は生かせる
 - 委員会では、以前のWSであった良い意見は抽出して生かしたいと考えている
 - もう一度同じようなWSを開催するかはこれから検討する、何かしらやっていく

■チェックアウト（一言感想）

- 細部に渡って色々なアドバイスをいただいたと感じている。ソフト面、多くの人々が色々な立場にありながら、行政サービス・公民館機能施設を使いたいのかを、子供達も含めて議論ができていくと、こういう建物が必要だという考えに繋がっていく。これからも、ご参加いただきながら意見を積み上げていきたい。
- 公募委員として11月に参加するまで庁舎改築に関しての知識がなかった。建築関係に長年関わってきているので、プロフェッショナルな意見を聞いていただけけるのではないかなと思っている。ご参加の御三方が質問してくださった内容は、私も質問したい内容だった。委員会では議論ができない、深掘りできない。本来は委員会でこのような質疑応答が行われるのが望ましい。委員会で質疑応答の想定問答を作っていくべきではないか。住民の意見を集約するためにはデータを収集することが重要なのではないかな。
- ありがとうございます。オンラインということもあってか、ハードル低くフラットに意見をいただきました。まさに、コミュニケーションをフラットにクリエイティブにしていきたい、一方で行政としては、伝えなければならないフォーマットがあり、全てをわかりやすく伝えることは難しい。我々民間委員が、行政と住民の間を行き来するバウンダリースパナー（繋ぎ役）として活動しながら、コミュニケーションを繋いでいきたい。

- 良い意見をありがとうございました。今日いただいた意見を踏まえしっかりやっていきたい。
- いただいた意見は、委員会、町長へ報告して、より良いものにしていきたい。次のSTEP2へもご参加をお願いします。
- 進行役としても勉強になりました。軽井沢がまた少し好きになりました。ありがとうございます。
- 公開されている資料も読み込んでいきたい。設計者も含めて、事業費の話や建物の中に視点が集まりがち。役場は町の拠点であり、拠点を中心として町に広がっていく視点が大事。モビリティ、交通結節点の在り方、機能の配置などの街全体の取り組みに繋がっていく連動性を持って行くことができれば良い役場になる。
- ハード面のアプローチになりがちだが、ソフト面のアプローチからの建物を考えることが重要と思っていた。公民館の件でそのお話しができたし、他の参加者のご意見にも共感した。個人的には事業費の絶対値の多寡は問題ではないと思っているが、前回の選挙の経緯もあるので、住民の納得感を得ていくことも重要だと考えている。
- オンライン・時間帯がありがたかった（平日は軽井沢にいないことが多い）。今後も色々なステップを進める中で、オンライン&夜の時間帯設定をしていただけると参加ができて嬉しい。町としての一大事業に一人でも多くの方が関わっていくことが重要だと思う。役場の方へお願い：HPから資料を読み込んだが、資料単独になった時に「いつ書かれたものか」「誰が書いたものか」がわからなかった。資料単独の中に日付や担当部署の記載が欲しい。